

三方町食見海岸に打ち上げられたルリガイ

松本 一夫¹

大部分の巻貝類が底棲性であるのに対し、アサガオガイ科 *Janthinidae* は世界中の暖流域に広く分布し、すべて海表面に棲み終生浮游生活をするため、強風のあとにしばしば海浜に打ち上げられることで知られている。2000年9月27日に、アサガオガイ科のルリガイ（瑠璃貝）*Violetta globosa* (Swaison) が、三方町食見（しきみ）の海岸に多数打ち上げられていたのを採集する機会に恵まれたので報告する（図1）。ルリガイは、薄紫色の巻貝で、本邦太平洋側では房総半島以南から採集されることが多いが、福井県においては採集地不明の記録があるものの、日本海側で多数採集された報告は今までなかった。

食見海岸（35° 33′ N, 135° 50′ E）は若狭湾国立公園内の三方海中公園に指定されている地域内にあり、背後に松林の風光明媚な砂浜が約1kmにわたって続き、夏には海水浴に訪れる人が見られるが9月下旬には人影もなく静かな海浜に戻る（図2）。



図1. 調査地の位置図.



図2. ルリガイ *Violetta globosa* (Swaison)

左：殻高36.5mm 殻径37.9mm 右：殻高37.1mm 殻径33.1mm

1. 〒914-0801 福井県敦賀市松島2-8-48

表1.ルリガイの殻高と殻径の測定値と個体数の関係

殻高と殻径の 計測値(mm)	殻 高 (個体)	殻 径 (個体)
10.0 ~ 14.9	4	7
15.0 ~ 19.9	51	58
20.0 ~ 24.9	81	85
25.0 ~ 29.9	76	66
30.0 ~ 34.9	91	88
35.5 ~ 39.9	19	24
40.0 ~ 44.9	13	8
45.0 ~	2	1
合 計	337個	337個

そのため、採集した際には打ち上げられた時からすでに数日が経過していたにもかかわらずそのままの状態であったと思われる。食見海岸付近に居住する小学生が9月中旬に目撃している。ルリガイが捕食するといわれ、今回、同時に漂着したギンカクラゲ *Porpita pacifica* Lesson はすでに溶けており、あとに残された多数の円盤状の盤部が、粘液泡で作った浮嚢を殻口から出したルリガイと共に、海草類や

木切れなどの漂着物に付着していた。あまり数が多かったため、大型のものとなるべく殻口の破損していないものを選び採集し殻高と殻径を計測した(表1)。採集された最大級の個体は、殻高が48.4mm及び45.1mm、殻径が44.1mm及び46.6mmであった。

なお採集された標本は、すべてこの食見海岸にある福井県海浜自然センター(若狭三方マリパーク)に保存・展示されている。

キーワード：若狭湾, ルリガイ

引用文献

- 奥谷喬司. 1980. 海の貝50種. pp.68 - 69. ニュ - ・サイエンス社, 東京.
- 奥谷喬司・波部忠重. 1996. 学研生物図鑑 貝 . pp.12, 158, 291. 学習研究社, 東京.
- 小松茂美. 1991. 茨城県日立市の海岸に漂着したアサガオガイ類. 日本貝類学会連絡誌ちりぼたん. 21 (4) :95.
- 並河洋・楚山勇. 2000. クラゲガイドブック. p.53. ティービーエス・ブリタニカ, 東京.
- 古川田溝・窪田彦左衛門 編. 1947. 福井県産貝類目録. p.10, No.188